

地域自主組織における  
災害対応の振り返りシート  
～R3年7月豪雨～

令和3年8月

雲南市地域自主組織連絡協議会



## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

大東地区自治振興協議会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

- ・大東地域交流センターはワクチン接種会場にて、大東公園市民体育館が指定避難所として開設
- ・12日9時30分発令の警戒レベル4を受けて、防災連絡網を通じて各自治会防災担当者に防災体制を確認。
- ・小規模な市道法面崩壊・民家の裏山崩壊が数件発生した。
- ・自治会防災会の判断で自治会公民館等に自主避難する自治会があった。
- ・河川の水位が上昇したものの決壊する心配はなかった。
- ・心配で独居高齢者同士連絡を取り合って大東公園市民体育館に避難された方が複数おられた。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- ・自主組織職員も自治会防災会の重要な役目があり、それぞれの対応に苦慮した。
- ・自治会防災会の対応に温度差があり、それぞれにレベルアップを図る必要がある。
- ・自治会防災会を通じた状況把握ができていなかった。

### 4. その他（自由記述）

- ・避難指示が出されたため、全世帯が避難しなければならないと思う人がおられた。
- ・今回地域交流センターを指定避難所として開設していないので、他を参考に準備を進めたい。

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

春殖地区振興協議会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

- ・初めての避難所開設の対応となりわからないことも多かった。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

- ・市からのパーティションの他、交流センターの展示用パネルやプラスチックダンボールも使用し、家族ごとに仕切って使用した。
- ・ホールにあるイス（ベッドにもなる）が活用できた。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- ・定員の基準がわからなかった（後で総合センターで回答済み）
- ・室内用ペット（犬）の持ち込みがあった。今回、家族毎に仕切っていたため良かったが、避難者が多くなった時のペットスペースの検討。
- ・マニュアルの作成、防災備品の準備（市から以外のもので最低限のもの）、炊き出しの必要性
- ・地区内3箇所（センター、西小、大中）が全て避難所となったときの自主組織の対応

### 4. その他（自由記述）

- ・避難所の開設・未開設があると、要支援者名簿の指定避難所の指定ができない（今までは、自治会毎に指定避難所が概ね決まっていた。）

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

幡屋地区振興会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

- ・総合センターからの避難所開設の指示があったので、すぐに交流センターを開放した。
- ・交流センターへの避難者が多くなったので、自治会公民館の開放を各自治会長にお願いした。
- ・朝早くから避難をされたので、お茶やパンを購入して配った。
- ・一人暮らしの高齢者の交流センターまでの送迎。
- ・自治会長や民生委員さんとの連携。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

- ・避難所開設に伴い早い段階で、パーテーションが用意されてよかった。
- ・昼食の非常食も対応が早くてよかった。
- ・避難者の方でベット使用にも対応されてよかった。
- ・市役所職員さんが常時2名滞在しておられたので連絡・調整など非常に心強かった。
- ・市の保健師さんが避難者の健康観察や精神状態を把握されたのがよかった。
- ・交流センターへの避難者が多くなったので、自治会公民館の開放のお願いを各自治会長と連絡調整ができた。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- ・今回は、昼間は天候が回復したので、食事は家に帰って済まされる家庭が多かったが、食事の準備が大変
- ・今回煮炊きをしなくてもよかったが、ボランティアによるむすびづくりなどすぐに対応できる組織作りが必要。
- ・2階女性用トイレがすべて和式で不便だった。
- ・車いすが必要。
- ・ベッドが必要。（起き上がりができるもの）
- ・枕と枕カバーが必要。（本来個人が用意すべき）
- ・カーペットの部屋は、マットが必要。
- ・避難時間が長かったので、娯楽設備（テレビなど）の部屋ごとに常設が必要。

### 4. その他（自由記述）

- ・8日の朝、杉原新聞店さんが10部配達されたので、避難世帯に渡した。

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

佐世地区振興協議会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

・大雨による対応として、7/7～7/9までの間は防災委員(自治会長)が自治会内の副会長・福祉委員・班長等と連絡をとり一時避難所(公会所等)の開設を行い避難者対応を行った。(一部自治会においては自宅を一時避難場所としている自治会もある。)公会所への避難者はなし。

・7/12は交流センターが指定避難所となり、事前の周知放送もあり、午前10時から15名の避難者を受け入れ対応したが、午後からは天候も回復したこともあり、14時30分頃から自宅に帰られる避難者が出始め、18時には全ての避難者が帰宅された。(公会所への避難者は2家族4名、夕方帰宅)

・7/12当日は、大東総合センターから指定避難所開設の指示を受け、コロナ感染防止の為に消毒液・体温計のチェック、受付用・避難者用に使用するテーブル等のアルコール消毒を行い避難者名簿・体調チェック表等を準備し対応した。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

・従来の指定避難所に加え交流センターが指定避難所に指定されたことにより、避難者の要望に対応できるようになった。(湯沸かし等調理室の活用・洋式トイレの使用・冷房の使用など)

・交流センターの備品を活用することで避難所設営の時間の短縮が図れるようになった。総合センターとの連絡・報告なども通常の電話機を使用することができるなど事務室の機器が使用できることで避難所運営が円滑に出来たと思う。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

・避難者が知りたい気象・災害状況など情報を提供する手段としてテレビの準備は必要である。

・高齢者の避難者が多かったが、バリアフリーが整備されていなく高齢者は不便を感じていたと思います。大研修室はカーペットであり車椅子の使用が困難であった。(フローリング等への改良が必要?)今回は6世帯の避難であったので全ての会議室を解放し、分散して利用してもらったが世帯数が増加した場合のプライバシーの保護について適切な対応が課題。(佐世小学校体育館利用時も含めて)

・高齢者の避難中の体調の悪化などを考えると保健師さんの配置も考慮して頂ければと思います。食事に関しては経済的な事情もあると思いますがもう少し考えていただければと思います。(インスタント味噌汁を付けるとか?)

### 4. その他（自由記述）

・佐世振興協議会として避難者の方々の意見を聞く機会があればと思っている。

・子どもたちは避難所で自由に(走ってみたり、大声を出したり)遊んでいた場面があったが、高齢者の方はどう思っていたのか?

・雲南市職員の配置について、昼は女性、夜は男性の配置があったが要介護(女性)が宿泊になった場合のトイレ使用時等の介助は不安がある。

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

阿用地区振興協議会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

- ・自治会集会所への避難、川西自治会の方は大東体育館へ避難された。
- ・和室を避難場所として使用した。
- ・図書室を幼児のいる世帯の部屋とした。
- ・快適ではないという方はいなかった。
- ・ペットは窓から見える場所の庇の下に場所を確保した。
- ・避難指示が出ている途中で天候が改善したが、避難所は継続された。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- ・避難所で必要な物品は市で準備をしてほしい。
- ・避難所開設から食事や宿泊等の対応など、運営方法を決めてほしい。
- ・今回は交流センターのみの開設だったが、交流センターと小学校との両方を開設した時の対応が心配される。
- ・福祉支援を必要とする方の避難については、福祉避難所への避難が直ぐに出来るようにした方が良いのではないか。
- ・福祉避難所があると知られないと思うのでもっとPRしてほしい。

### 4. その他（自由記述）

- ・避難所運営は市がするのか、自主組織がするのかわからない。自主組織の立ち位置がわからない。
- ・避難所で炊き出しをした場合、その資金はどこからでるのか？

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

久野地区振興会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

7日～8日

・「避難指示」対象地域外ではあったが、念のために、8日夜は交流センターを自主避難所として解放した。

12日～13日

・9時30分に「避難指示」が発令されるまでに自治会長に自主避難場所開設および諸事項についての連絡を行った。

・日中の避難者が8名あった。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

・避難指示対象外でも自主組織の判断で自主避難所として避難所を開設した。

・自治会長が自治会内の各家を回りの状況確認し、数名の高齢者に対し避難を促し指定避難場所に連れて避難された例があった。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

・ペットを連れての避難された時の対応

・炊き出し等食事を提供した場合の費用

### 4. その他（自由記述）

・避難所対応に係わった（夜間対応等）自主組織職員はボランティアなのか。



## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名：海潮地区振興会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

#### 【避難所運営について】

7/7～9

○5時20分過ぎに職員は集合し振興会役員に連絡。直ちに避難所（中学校体育館、交流センター）の開設準備に入る。

○中学校の視聴覚教室を開放してもらい、一部の高齢者に利用いただく。（パーテーション使用）

○朝食を食べずに避難した人に、自主組織で備蓄している非常食を提供した。

○7日昼食は市からの非常食で対応したが、夕食および8日朝食はおにぎり、みそ汁の炊き出しをおこなった。

○夕食および宿泊のこともあるので、中学校に避難されている人には交流センターへ移動してもらった。

- ・避難者数 中学校 41人、センター 44人

- ・宿泊者数 中学校 8人、センター 39人

○8日 9時ごろには全員が帰宅された。

7/12～13

○避難指示発令が時間内であったこと、避難所がセンターのみであったことから運営はスムーズできた。

○避難が長時間になることを想定し夕食の炊き出しを準備した。

- ・避難者数 センター 39人

○12日 夕方までに全員が帰宅された。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

○中学校が休校となり空調設備のある視聴覚教室が利用できたことで、高齢者や集団が苦手な人のためによかった。

○夕食や宿泊のこともあり、自主組織独自の判断で夕方に避難所を1か所（交流センター）に集約したことは、避難所運営においてスタッフの負担軽減のためによかった。

○非常食は味気ないと思い炊き出しを準備した。運営する側は大変だったが、避難された人には大変喜ばれた。また、元気な避難者は自ら手伝いを申し出られ、お互いに避難所運営をしているという気持ちになれてよかった。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- 防災備品や避難所運営に必要な物品を充実させておくことが必要と認識した。
- 避難所施設の不備な点を確認できた。
- 海潮地区は指定避難所が2か所あり、開設のための備品移動（交流センターから中学校へ）は人員も必要となり大変である。中学校体育館は空調設備や洋式トイレが無いなど総合的に避難所に向いていない。また、地区本部（交流センター）は様々な情報を収集発信することから、避難運営をおこなううえでも避難所との一体が望ましい。開設の優先順位をまずは交流センターを一番目の避難所に位置付けてはどうか。
- 要介護の人が簸の上園へ避難されたが、市は今回福祉避難所を設置してないとのことでショートステイ扱いとなった。元気な人は避難してもお金がいらず、介護が必要な人はお金がいるのはおかしいねという声があった。要介護の人が安心して避難できるようにしてほしい。
- 宿泊に関しては密の状態であった。この時期は市内での感染者が出ていなかったが、今日的な状況下であれば慎重な対応をしなければならないと感じた。
- 今回はライフラインの影響はなかったが、停電や断水等に備えた協議が必要。
- 自治会長から、初めてのことでどう対応してよいかわからなかった。対応マニュアルが必要との意見があった。
- 当自主組織には避難所運営マニュアルがないことから、早急に作成しなければならないと感じた。

#### 4. その他（自由記述）

- 7/7 早朝に避難指示が出され中学校は休校であったが、小学校とこども園は通常通りだった。避難指示を出しておきながらのこの対応はいかがなものか。
- 市役所職員が2人ずつ張り付いたが、最初は座っているだけだった。保健師が2人「市役所の保健師です。健康チェックに来ました。」と言って避難者を回ったのは安心感を与え良かったと思う。市から派遣するときには、避難所に行ったらどう行動するかの指示等を確認し派遣してほしい。市職員が頼りにされる存在に！
- 保健所からの訪問で、「調理には体調の悪い方は参加しない。おにぎりは素手でにぎらない。味噌汁は作り置きしてはいけない。スポーツドリンクはやかんに入れられない方がよい」とご教示いただいた。
- 今回多くの災害が自治会内で発生しその都度災害報告を市におこなっている。市においてどのように対応されるのか自治会（自治会長）へ情報を返していただきたい。
- （8/8のように）避難者がいない時の時間外や休日に避難所運営に携わった職員への手当て支給を要望する。自主組織職員であるからボランティアで対応すべきで済ませてほしくない。
- 交流センターの避難所看板が未だに設置されていない。

# 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

塩田地区振興会

R3.8.12

## 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

- ・（大東総合センター⇄振興会会長⇄主事）三者連携で、迅速に対応出来る規模。
- ・管内3自治会それぞれに有事の対応は異なり、振興会での一元的な対応は難しい。
- ・防災無線が4箇所設置されており、各箇所毎の対応がそれぞれに必要な状況。
- ・自治会副会長が、自主防災準備委員を兼務しており、連絡体制は出来ている。
- ・旧小学校体育館が避難指定場所で、環境としては良くないし、避難者も少ない。

## 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

- ・初動的な対応は問題なくスムーズに行い、市の避難所スタッフとも連携が出来た。
- ・コンパクトな避難所運営であり、少人数の避難者で、短期間の設置であれば大丈夫。
- ・目に見えた災害や被害が無く、どこまで機能したのか良く分からない。

## 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- ・各地区ごとの状況を把握するしくみ・ルール作りが必要。（安否確認・連絡体制等）
- ・3自治会毎の『自主防災の立ち上げ』を行っている段階で、年度内での体制づくり。
- ・避難場所（旧小学校体育館）と交流センター施設との使い分けや利用方法を検討。  
（飲料水・食料・寝具・防災グッズ等の備えを交流センターで行う事も必要）
- ・停電時の対応が全く出来ていない。併せて、大規模な避難を想定した対応も検討する。
- ・各地区毎の、一次避難・二次避難の段階的対応についての検討（防災無線4箇所別）
- ・市からの持ち込み防災グッズ・備品が交流センターのものと混在し、片付けの際に煩雑になるため、「雲南市防災備品」等のシールを作成・貼り付けし、所有者を明確にするなどの事前の準備を徹底してほしい。（個々の品目に貼らなくても所有が分かるものは段ボールの箱に貼るだけでも良い。）

## 4. その他（自由記述）

- ・旧塩田小学校体育館は、閉校後10年が経過し、維持管理全般に不安がある。  
（窓に隙間があり蚊にさされる。井戸水供給が不安定で水質も問題がある等々）
- ・阿用川に掛かる『塩田橋』を渡って避難所（体育館）に行くが、川沿いにあり、河川氾濫が発生すれば渡れなくなる。（市からの避難所スタッフ派遣も危険な場合がある）

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名 加茂まちづくり協議会

---

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

- ・7月7日早朝の大雨に関しては、雲南市から情報提供や要請等の連絡はなかった。他の交流センターと連絡を取り合ったが他地区も同様であった。自主組織内では雨雲、赤川の水位、5kmメッシュの推移を見守るにとどまった。
- ・12日午前中の大雨に関しては、避難所開設準備の応援、要配慮者名簿に基づき各世帯への安否確認（電話）等を行った。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- ・地域自主組織と各自主防災組織（自治会）との連携
- ・避難行動を促すためのタイムラインの想定

### 4. その他（自由記述）

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

八日市地域づくりの会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

- ・警戒レベル4が発出され、交流センターへ避難する人も想定されたので、受け入れ準備をする。
- ・当日は1階ホールが貸し出し中であったので、応接室を避難者の部屋とする。
- ・避難者に氏名、住所、連絡先、体温を記入してもらう。（交流センターの入館名簿）
- ・ホールの貸し出し終了後には、ホール及び1階和室を避難所にする。
- ・木次総合センターへ連絡して、市職員の避難所への派遣があるのかを確認する。
- ・その後、市職員の1名が到着して、持参した避難者名簿に転記する。
- ・役職員から交流センターへの出動の問合せもあったが、地区内の災害情報も入っていないので、自宅待機することにした。（各自治会への被害の問合せはしていないので、実情は不明）
- ・午後4時頃、市職員2名が到着し、定時（17時15分）以降は市職員で避難所の対応をするので、交流センター職員は帰宅してよいとの話だったので、交流センター職員は帰宅した。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

- ・警報が発出されたのが、平日の朝で勤務時間中であったので、避難所の開設がスムーズにできた。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- ・警戒レベル5が初めて発出され、どうしてよいかわからなかった。
- ・避難所に来た市職員との役割分担ができなかった。避難所では派遣された市職員の指示に従うのか、市職員が地域の防災会の指示に従うのかが、はっきりしていない。
- ・当日は交流センター職員が帰宅したので、17時15分以降のことは不明であるが、宿泊した市職員から翌日以降もどのように対応をしたかは報告がなかった。（備品等の片付けなど一切なし）
- ・地域自主組織で準備していた非常食が個別包装ではなかったので、非常食の提供ができなかった。（避難者が食糧を持参してきていない）
- ・地域内の災害状況情報を自治会長を通して収集するのを感じた。（できなかった）

### 4. その他（自由記述）

- ・避難者が食料を持って来ていなかった。自主避難の場合は最低でも1食分は持参するように周知する必要があると感じた。
- ・字際に避難指示が発出され、避難者を受け入れたが、本番であり同時に実践的な訓練にもなった。（大いに反省材料が見つかったのは良い意味で良かった）

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名 三新塔あきば協議会 (三新塔地区自主防災会)

---

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について (自由記述)

- ・※別紙 (Sheet2)参照

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点 (自由記述)

- ・今回三新塔地区では、土砂災害の恐れが強かったため、新塔地区を重点的に被災状況を確認した。毎年の避難訓練の成果もあり、各自治会長との連絡はスムーズに行われた。
- ・高齢者世帯、高齢者独居世帯の避難に際し、近所の方が自主的に早めに対応され三新塔交流センターの避難所へ付き添って来られた。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点 (自由記述)

- ・指定避難所になっているチェリヴァホールの避難所開設が遅れ、新塔地区からチェリヴァへ避難された方が、避難所が開設されていないとお叱りの連絡があった。
- ・今回のようなレベル4～5の場合、通常災害対策本部を立ち上げ、20名の災害対策本部員を招集するが、三新塔地区の降雨の状況が大きく悪化することがなかったため、自主防災会の幹部役員 (会長、副会長2名、事務局長、防災会幹事2名) と事務局員3名の9名で対応した。今後このような状況が生じた場合、これで良かったかどうかの検証が必要と思われる。
- ・今回の豪雨災害のように、レベル3を乗り越し、いきなりレベル4・5のケースが多く発生すると思われる、それに対応した想定マニュアルの作成が必要。
- ・三新塔自主防災組織の災害想定マニュアルのなかに、避難所運営の役割分担についての詳細な規定がないので今回の災害を受け、改めてその必要性を感じた。
- ・今回の災害を時系列で見た時、レベル4・5の発令時、雲南市から発令に至る気象状況の説明が何もなく、我々は、テレビを通してしか状況を知る術がなかった。自主防災組織へはもう少し詳細な説明が欲しい。

### 4. その他 (自由記述)

- ・チェリヴァホールの避難所開設が遅れた原因に、市内でも地区によって災害の発生状況に大きな差があり、特に三刀屋を始め、飯石地区の被害が大きかったため、市の職員もそちらに重点的に配置され、木次地区のように被害の少ない地域にまで手が廻らない状況があったと考えられる。今後もこのような状況が起きる可能性が高いと思われるので、こういった場合、自主組織への応援要請や緊急時対応として市の職員OBの方に登録をしてもらい、避難所開設にあたってもらえるのはどうでしょうか。

R2年7月12日（月）雲南市の大雨災害に係る三新塔地区自主防災会の対応経緯（時系列）

時刻	記 事
7:43	気象庁 雲南市を含む島根県東部に大雨警報発表
7:52	雲南市 警戒体制
8:56	雲南市・飯南町外に大雨警報（土砂災害レベル4）【氾濫危険情報・土砂災害危険情報】
8:58	気象庁 大雨洪水警報発表
9:00頃	木次総合センターより連絡（現在、避難所開設の方向で検討中、自主避難者の受け入れの要請あり）
9:20	自主防災会上代本部長より、三役（副本部長2名）+防災会幹事を招集するよう指示あり
9:20~30	事務局より、陶山・森山副本部長、岩佐・舟木幹事へTELにて招集を連絡
9:43	雲南市より 警戒レベル4 全戸へ避難指示発令 木次総合センターより避難所開設の連絡あり
9:45	陶山・森山副本部長、岩佐・舟木幹事交流センターへ到着 ただちに災害対策本部体制立ち上げの準備と避難所開設の準備を開始
9:50~	避難者順次来館 総計11名 ※詳細別紙
11:45	
10:40	雲南市より、避難所対応職員2名到着（桑原・山中）・毛布、携帯食料(アルファ米)持参
10:42	雲南市より 警戒レベル5 緊急安全確保発令【大雨特別警報・氾濫発生情報】
10:45	チェリヴァーホールの避難所開設状況把握のためキラキラ雲南へTEL（職員より、まだ避難所開設の準備はしていない。市からの連絡が何もなしとのこと。） 〈各自治会からの状況報告〉
10:55	28区（宮内自治会長） 案内川の増水1mぐらい。現在各戸を巡回中！ 裏山は今のところ異常なし。
11:00	上代本部長より、26区の田部班長へ現況確認を依頼。（荒砂自治会長と連絡がつかないため）
11:00	30区（小林自治会長） 自治会内へ避難を呼びかけ、今チェリヴァーホールへ10名で到着したが、避難所が未開設だ。 （いったいどうなってるんだ！！とお叱りを受ける）
11:01	木次総合センターへチェリヴァーホール避難所が未開設状態の件を連絡。これから職員が向かうとの連絡あり。
11:05	八日市 深田事務局長よりTEL。避難者が数名おられるが、いまだ雲南市職員が来ていない。三新塔はどうかとの問い合わせ。こちらは、すでに2名きて対応してもらっている。総合センターへ連絡してみたらと応答。
11:06	三新塔交流センターより、舟木防災幹事をチェリヴァーホールへ派遣。
11:10	30区（小林自治会長） 現在、自治会内は異常なしと連絡あり。
11:10	29区の門脇自治会長と連絡が取れないため、自治会長代行の安部幸子さんへ連絡し、自治会内の状況を連絡してもらうよう依頼。
11:15	28区（宮内自治会長） 案内川の水位が下がってきた。現在異常なし。
11:20	29区（安部自治会長代行） 29区内の住民は、異常なし。 上福田 畑宅より下福田 大山宅付近へ多少の土砂流出があり。
11:35	26区（田部防災会班長） 自治会内異常なし。三日市住宅会館への避難者なし。
11:47	舟木防災会幹事よりチェリヴァーホール避難所へ雲南市職員2名到着の連絡あり。 〈チェリヴァーホール避難者〉 30区9名、23区2名、25区1名 三刀屋町住民5名（うち子ども2名）※詳細別紙
12:00	雲南市から提供のアルファ米で昼食
12:52~13:25	三新塔交流センターの避難者は、全員帰宅。
14:40	23区 野口さん避難のため来館 14:55帰宅
15:00頃	チェリヴァーホールの避難所は、1家族3名（23区難波様）以外は全員帰宅。
15:30	上代本部長の指示により、交流センター内災害対策本部体制解散
16:55	雲南市より、避難所対応職員2名来館。これより夜間の対応のため交流センターに駐在するとのこと。

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

新市いきいき会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

・新市交流センターは、木次総合センター内にあるため本部との連携・情報共有がしやすい環境にある

・レベル4の発令とともに各支部（自治会）に連絡し住民の状況把握と、要支援者への避難指示を行った。

・地区内から自主避難する住民が交流センター及び自治会集会所に避難を開始した。

・レベル5が発令され、地区内に告知放送で安全確保を呼びかけ、避難できる住民は指定避難場所「木次総合センター」への避難を呼びかけた。

・昼前、避難者への食事を手配し集会所に運んだ。また、市職員とともに炊き出しを行い、町内各所への食事を準備した。新市地区の避難者約40名にも食事（わかめご飯・みそ汁）を提供した。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

・住民の安否確認をする中で、速やかな自主避難が行われた、互いに避難を呼びかける行動が見られた。

・乳幼児の避難が3世帯あり別室を用意して個別避難とした。

・なにより、被害が発生しなかったことは幸いであった。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

・これまで「住民の安否確認」を重視した取り組みを行ってきた。それなりに成果をあげているが、自治会の格差が見られ、危機意識の共有が必要と感じた。

・避難する際に、「手ぶら」で避難する住民がほとんどであった。非常袋の準備や当面の食糧（パン・おにぎり・おやつ等）を準備するなど避難に際する備えの必要性を感じた。

### 4. その他（自由記述）



## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

下熊谷ふれあい会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

〈情報伝達関係〉

・大雨警報については自治会長に連絡、「警戒レベル4」「警戒レベル5」については自治会内の連絡網により全世帯に周知したが、平日の昼でもあり出勤者が多く、自治会によっては連絡網通りにできなかったこともあったが柔軟に対応出来た。

〈避難所運営〉

・防災組織の避難所運営マニュアルに沿って運営したが、受付、健康チェック、部屋割など実際にやってみるとそれぞれに課題が残った。

〈避難者数〉

下熊谷交流センター26人（15世帯）、上区公会所3人（2世帯）

〈被害関係〉

特になし

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

- ・情報伝達については昨年、伝達訓練を実施したのが役に立った。
- ・避難所運営については、簡易的な運営マニュアルを作成していたので大きな混乱はなかった。
- ・センター職員で備蓄品や器具などの場所、数量などを確認していたので、非常食などをスムーズに提供できた。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- ・情報伝達については電話での連絡網だと全世帯に連絡するのに時間が掛かる、他の連絡方法（メール、ライン）などの連絡方法も検討する必要がある。
- ・連絡網の情報だけに頼らず、各々が防災情報を得る手段（安全安心メールなど）を持って迅速に行動を開始するのが理想。
- ・本部、自治会長間の連絡及び報告のみとなっている、ラインなどで自治会間のタイムリーな情報共有なども有効ではないか。
- ・今回は昼間の時間であったが、深夜の場合情報伝達出来るのか不安がある。

### 4. その他（自由記述）

- ・近所の人声かけにより避難された方が多かった、日頃のご近所同士の交流が大切。
- ・市の指示により指定避難所を開設するが、避難所運営には費用が掛かる、負担について市と自主防災組織との取り決めがない。
- ・指定避難所を開設した時、市から派遣された市職員と自主防災組織との役割分担が明確でない。

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

斐伊地域づくり協議会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

- ①斐伊地域づくり協議会の決めている水害避難所は=雲南消防署2F体育館。今回放送された避難所は斐伊交流センターであった。当日経過はいろいろあったが、放送前に連絡があって良かったのでは。
- ②レベル4（避難指示）前は急激な大雨で、すぐにレベル4になった。  
同上発信（放送）に伴い、斐伊地区防災対策本部要綱に基づき、斐伊防災会議3役、斐伊地域づくり協議会3役、職員に、直ちに連絡を入れ、可能な者は招集をかけた。
- ③避難所設置。避難指示を受けて、交流センター多目的ルーム、和室を避難所として開設。  
入り口受付台にて、記帳（住所・氏名・☎・入り時間他）、手指消毒、検温、マスク付け後、部屋に通す。（間隔の保持、テレビの視聴、エアコン稼働）
- ④非常食、備品等=非常食や飲水、避難備品は少しは保有しているが、昼食は木次総合センターからドライカレー（非常食）15食支給していただいた。午後から雨が上がったので、夜や泊りはなかったため、非常食や毛布等の使用はなかった。
- ⑤災害確認。特に災害は見受けられなかったが、随時「請川、案内川、斐伊川、請川水門等」の水位や低いところの灌水等異常がないか確認して歩いた。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

- ①発生から発令までの時間が、職員が出勤後であったため、「避難情報の伝達」や「避難所設置」「避難者受付」等の体制が取りやすかった（夜間なら大変だった）。
- ②午前中で雨が上がったため、請川の水位が昼頃から下がり始めてきたため、斐伊交流センターの避難所設置は支障がなかった。（雨が続けば消防署体育館に移設が必要となる）
- ③今回交流センターが避難所であったため、電話やインターネット、テレビ、FAXが利用出来たり、室温等の空調管理もできた。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- ①近年、自治会との取り決めで、水災時の避難本部は消防署に置くとしており、今回斐伊交流センターに避難してくださいと放送があり、どこに避難するのかと数件問い合わせがあった。今後の再検討項目である。
- ②午後2時過ぎに、斐伊川逆流防止のため、請川水門を閉めると連絡があった。そのあとすぐ、尾原ダムの放流を開始すると放送があった。午前中の雨が午後も続いたら、請川の水位は上がり、交流センター自体も水没する可能性もある。この対策として、水門に強力な動力ポンプを数台設置し排水が安心できるよう早急に対応してほしい。

### 4. その他（自由記述）

- 【水害防止対策事業として】
- ①山田川と請川合流地点の土手の改修（補強）…ピーク時はオーバーフローしそうだ。
  - ②請川上流「山方地内：大原電機を挟む上下河川土手」…川が浅い、土砂が堆積、狭くなっている状態で、今回もあと30~50cmでオーバーフローしかけていた。早急に河川改修を望む。
  - ③請川樋門（水門）に強力な動力排水ポンプの設置
- 【避難所運営について】
- ①地域内での一時避難所と指定避難所の意味がやや理解されていない。身を守る基準は本人宅の状況で全部違うが、とりあえず身を守るには、身近な危なくないところ「一時避難所」。そこから離れて公共の方々と共に見守られる「指定避難所」はさらに安心をしてもらえるところとして運用。
  - ②今回は市内一斉のため、市職員も手いっぱいだったと思うが、避難所支援をもっときちんとシステム化し、誰でも支援ができる体制にしていきたい。何しに來られたんだろうか的なところもうかがえた。避難所運営の役割分担をお互いに理解しておかなければならない。

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

地域自主組織 日登の郷

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

・突然の集中豪雨で情報が少なく、対応に苦慮した。避難訓練をしてきたが、生かされなかった。

・集中して避難者の受け入れを前にするとマニュアルどおりには取り組みができないことに気づかされた。

・交流センターの要望を総合センターに上げて、その結果がリアルタイムに共有できなかった。（総合センターの対応が機能できないほどの状況だったと推測する。）

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

・すべての点において反省しきりですが、人的な被害を出すことが無くて、本当によかった。

・熱心な民生委員さんのお陰で、独居老人の避難誘導や地区内の声掛け避難の効果で多数の人が無事、避難所へ避難できた。また、昼食の状況を見て、炊き出しをかって出て、昼食が行き届いた。このような人材がいて助かった。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

・今回、夜間であったらと思うともっと深刻な状況だと想像する。そのいう事態も想定した訓練・研修会もあってもいいと思った。

・移住者の皆さんは避難対応が早く、隣の家が避難されないことを不思議に感じておられた。長年の経験で判断されているが、もう一度、早めの避難意識を改めて検討する機会を作りたい。

### 4. その他（自由記述）

・総合センターの非常食を当てにしていたが、不足していた。各交流センターで準備しているところもあると聞いているが、そのような備えは各交流センターですべきか。また、災害備品の調達はどこまで揃えるのか。指針を示してほしい。

・紙おむつが無くて困られた。

・避難者の皆さんは、着の身着のままの状況で避難されたが、各自「非常袋」を持参することを啓発していきたい。そうすれば、紙おむつや非常食も持参して頂くことができると思う。

・市役所の避難所開設について、地区の状況によるガイドラインの見直しも要検討では？

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名 西日登振興会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

27世帯、52名の避難があった。

#### ○避難所開設で行ったこと

- ・避難者住所、氏名把握（世帯状況）
- ・健康状況把握（検温、マスク）
- ・部屋の割り振り（コロナ禍のため、密にならないように）
- ・座布団、ゴザ、パーテーション、毛布、簡易トイレ、座椅子の準備
- ・非常食（市へ手配）、飲物準備
- ・自治会長、市役所等との連絡・調整
- ・帰宅者チェック
- ・宿泊があったので、貸館責任者も宿泊した。
- ・夜間、再避難される方のため、市職員2名待機・受付の設置を行った。

#### ○避難所閉所で行ったこと

- ・避難者住所、氏名把握（世帯状況）、健康状況把握（検温、マスク）を市へ提出。
- ・避難所備品の乾燥・片付け。
- ・コロナ関係で消毒・掃除。

#### ○自治会長・土木委員宛の災害報告書の配布

- ・災害報告書については、お礼の言葉が数件の自治会からあった。

#### ○災害報告書の作成と自治会より提出された報告書を総合センター提出・保管

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

・日中であったので、自主防災会のお休み予定の主事・勤務先へ出かけている役員も刻々と避難所に集まり、避難所でできることにあたった。

- ・三刀屋町上熊谷の指定避難所ではなかったようだが、上熊谷の自治会長よりの連絡で、避難所受入れがスムーズにできた。
- ・避難要支援の方の自治会支援がスムーズにいき、避難・帰宅もスムーズに行うことができた。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- ・災害時、振興会（自主防災会）でできること、しなければいけないことについて共通理解しておきたい。
- ・パーテーション等のセッティングの仕方が分からず、時間がかかった。非常時用の備品を一度全て開けて、セッティングしてみればよかった。
- ・前もってあらかじめだいたい役割を決めておけばよい。
- ・手順をシュミレーションしておけばよかった。
- ・パーテーション等の組み立て、非常食や飲み物配布は、避難者協力を得てよいと思う。
- ・部屋の移動等事務室へ連絡して、移動してもよいと思う。
- ・名簿・健康状況把握プリントは、確認の意味でもよかった。
- ・保健師による体調チェックと健康把握プリントチェックと二重手間になった。
- ・入口は避難者把握のためにも一か所が良い（ホール側から連絡なしに入っておられた）。
- ・保健師さんより体調の悪い人のことで説明をされ対応を任されたが、素人にゆだねられても何かあった時に困る。一人は避難所に常駐してほしかった。
- ・帰宅する時は、避難者把握のためにも連絡がほしかった。
- ・小学校体育館へ避難しようとした方ができなくて困ったという情報があった。

### 4. その他（自由記述）

- ・避難指示が豪雨の最中にあった。空振りでもよいから早めの指示がよかった。そのため市役所職員の到着も時間が遅れた。
- ・今回は、日中であったので自主組織は主事が勤務についており、開所がスムーズに行うことができた。夜間だと難しい。

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名 (一宮自主連合会)

---

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について (自由記述)

#### 避難

- ・レベル4 避難勧告!の放送が出されたときには、地域では避難出来ない状況にあった。
- ・要配慮者、それ以外の者も動けなかった、と聞いた。
- ・避難所アスパルには60人!?避難されたが、近場の方だけが避難されており、裏山の危険な家庭、一人暮らしの家庭、高齢者世帯・・・ジッとしているより方法が無かった。

#### 昼食、飲料水

- ・避難所の移動(アスパル1階→アスパル2階へ→三刀屋小学校へ)の関係もあったが、非常食をお願いしたけれど届かなかった。
- ・自治会で食事を用意されたところ、自宅から食料品を持参されたところがあったが、全く無い方もあった。最終的にはどうだったかは確認していないが、交流センターから20食だけ持ち出しもした。
- ・それぞれの世帯において、避難に必要な品物の準備が必要。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点 (自由記述)

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点 (自由記述)

#### 避難行動要支援者と支援者

- ・自治会内での体制づくりが必要である。大雨だけでなく大雪、地震、停電、断水等、幅広い非常時の際に、自治会内で安否確認が出来ていたのか、支援者と要支援者の体制が確立されていて、機能していたのか、再度地域で啓発・整備が必要である。

### 4. その他 (自由記述)

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

雲見の里いいし No. 1

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

#### 《避難所対応》

- ・避難指示前 大倉自治会より1名避難。避難指示直後、下口自治会から4名避難。避難所設営中に多久和支部から避難者が多く来た。
- ・ほかの支部とは土砂崩れにより分断されたが、電話連絡で避難所の開設をお願いした。
- ・集会室にカーペットを敷いた。和室に横になる人もいた。
- ・宿泊される避難者は少なかったため、プライバシーはあまり問題なかった。

#### 《感染症対策》

- ・受付に時計を置き、何時から何時まで滞在したかわかるようにした。 ・市から配布されたウェットティッシュやマスクを使った。
- ・避難された方々もマスクの着用など気を付けておられた。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

- ・7/7の大雨で自主避難所を開設した際に避難者名簿などを用意しておいたので、避難所開設は速やかに行えた。
- ・令和元年度、宝くじの助成金で整備した防災備品が使えた。また偶然にも、前日に防災備品点検を行っていたため内容を把握しており、対応しやすかった。
- ・避難者の多くが避難所運営に協力してくれた。保存水や毛布の運搬、避難者の介助、食事づくり、配膳など。中学生もスリッパの消毒など積極的に取り組んでくれた。
- ・給水所の交通整理、断水家庭への水の運搬など、災害後も協力者が多かった。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- ・自主防災会は機能しなかった。平成30年度に自主防災会を作り、昨年度、防災ハンドブックを作って配布したが浸透していない。事務局としても参照していない。本来であれば警報が出た時点で対策本部を設置し役員が集合することになっている。しかし今回のように地域が分断され、被災した家が多い状況では災害発生と同時に役員集合は不可能。結果的に交流センターが「対策本部」のような機能を持ったが、今回の経験を踏まえて防災組織と防災計画の見直しが必要だと思う。
- ・住民の安否確認を組織的に行えなかった。近所の方や自治会長さんが独自に安否確認されたようだ。今回は道路の断絶や災害発生までのスピードなど、避難が難しい状況だったので、安否確認が重要だった。今回は雨は長く続かなかったのが幸運だったが、今後は連絡網の整備と、安否確認を中心とした防災訓練を行いたい。
- ・災害対応と感染症対策との両立は難しい。避難所では距離を取って食事をしてもらうところまで気が回らなかった。また断水で手洗いもできない。避難所が長く続けば、あるいは宿泊者が多ければ感染リスクはもっと高まったと思う。災害後も人の出入りが激しく、コントロールしきれない。給水所にも人が集まる。災害で疲れ切っている方々、いろいろと力を貸してくださる方々に対して「消毒してください、離れてください、マスクしてください」と言うのは心苦しい。
- ・職員の勤務時間の管理が難しい。出勤・退勤を記入する表を壁に貼り、すぐに記録できるようにすればよかったと思う。また勤務シフトなど、平時から職員で話し合っておくべき。
- ・あわただしい中、情報の伝達が難しく、とにかくポスターの裏になんでも書いてそれを見てもらおうようにした。途中から日にちと時間を書くようにしたが最初からそうすべきだった。
- ・旧小学校を避難所として開放した。今回は利用者がなかったが、小学校は交流センターからやや距離があり、人の出入りが確認できないので、小学校を避難所にする場合の安全管理は検討が必要。
- ・最新のゼンリン地図の必要性を痛感した。購入を検討しているができれば市から配布してもらいたい。
- ・災害報告の写真をスマホで撮って持ってこられる方が多かったため、スマホ⇄PCをつなぐケーブルが必要だった。写真が大量なのでメールで送るのは難しかった。
- ・↑と関連するが、例えば自主組織でスマホかタブレットを用意し、LINEアカウントでも取っておけば、データのやり取りがもう少し楽だったかもしれない（プライベートのスマホ等は使いたくない）
- ・ペットを飼っている人が体育館に避難された。今回は「棲み分け」ができたが、体育館はエアコンがなく、トイレも和式しかない。避難所生活が長くなったり、ペット同伴者が多い場合はもめるかもしれないので、平時の話し合いとアナウンスが必要。
- ・「交流センターで給水できると知らなかった」という声を聞いた。放送は何度も流れたが、断水のタイミングがまちまちだったので、聞き漏らした人もいたかもしれない。水道局からは「これから断水するかもしれない」という内容の放送をもらった。また、断水地域や復旧についてしつこく水道局に電話して迷惑をかけたかもしれないが、水は一番気になるポイントなのでできるだけこまめに情報が欲しい。
- ・道路の状況のため、給水車が飯石地区内各地を巡るのは無理だった。自主防災組織で、給水班の体制を整えたい。
- ・避難指示が解除されていないのに、午後、雨が上がったら多くの方が帰宅された。家族が迎えに来られた家も多い。二次災害の危険を考えれば、強制的に引き留めるべきだろうか。方針を平時にある程度統一しておく必要がある。
- ・看護師の資格をお持ちの住民さんから、ボランティアの申し出があったが、何も頼むことができなかった。平時からニーズとボランティアのマッチングを考えたい。
- ・罹災証明や災害報告書の書式を平時から自治会長さんらと共有し、災害報告の手順を確認しておくのと良いと思った。

### 4. その他（自由記述）

- ・市の職員さんがヘルプに来られたが、自主組織側がニーズを正確に伝えないと人員の無駄になる。また、災害時の情報共有はボトムアップが基本だと思うが、交流センター⇒総合センター⇒市役所本庁の縦の流れが感じられなかった。円卓会議などで、それぞれの役割を整理できるといいと思う。

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

雲見の里いいし No. 2

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

- ・飯石地区はあんな状況の中でありながら、素早い対応だったと思います。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

- ・災害前日に防災備品の点検をしていたことは良かった。
- ・避難所を開設したとき、お年寄りや体の不自由な方をサポートする方がいたことはとても助かった。
- ・非常食は50食単位でなく小さな単位のものが良かったと感じた。
- ・交流センターにシャワーくらいはあった方がいいと感じた。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- ・飯石は地区が離れているために、道路が寸断されるとそれぞれの地域の情報が入りにくいと感じた。
- ・災害時に避難した方がいい場合、避難しない方がいい場合があると感じた。あの土砂降りの中、年寄りが外に出た方がいいのか、家にいた方がいいのか、上熊谷は避難所近くに土砂が流れ出た。避難の判断はどの時点とするのかがとても重要だと思った。
- ・今回の災害をもとにもう一度それぞれの家族で状況に応じた避難の在り方などを決めておく必要があると感じた。

### 4. その他（自由記述）

- ・暑い中懸命に取り組んでいただいた職員の皆様には感謝いたします。一方では派遣された市職員によっては、災害に対する意識と行動に差があったように感じます。災害にあった方の感情を逆なでするような軽率な言葉もあったように聞きます。言葉を選んで住民に伝えてほしい。市の職員であるということを、しっかりと自覚してほしいと思います。
- ・このような災害はそんなにあることではないのですが、だからこそ、災害があった時の対応を記録に残し、研修をしていく必要があると感じました。（情報をどう取りまとめるか、それをどうみんなで共有するのか、市職員の役割、避難所での役割分担等）

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

雲見の里いいし No. 3

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

【一日目】7/12、雷雨 9:30くらい 最初の避難者は1, 2組。その後すぐに続々と交流センターへ避難される。外は大変な状態になっていると避難者さんから聞かされる。雨に濡れた身体を拭いてもらおうと、タオル、お茶、防寒に毛布を出した。交流センターの電話はなりっぱなし。災害状況に関する電話が続々に入り、メモを取る。いつの間にか飯石地区は4支部で分断され、孤立状態となってしまった。昼、アルファ一米の炊き出しをした。とにかくその場その場で出来ることを見つけ、対応していった。雨が落ち着いた頃に交流センター近辺を歩いてまわる。いたる所で水が出ている。怖い。飯石川が見たこともないくらい氾濫し、周辺の道がなくなっていた。その日の午後、水が出なくなる。 給水対応、避難所対応 他。お腹が空かず、眠くもなかった。

【二日目】各自治会長さんが被害状況を見てまわられる。個々や自治会で土砂の撤去をされている。夕方、だんだんと周囲の異変が見えてくる。「助けて!」と言われ交流センターに駆け込まれる方、電話。市へ電話で助けを求めるが、内部で話が全く伝わっていない。必死だった。悔しかった。

【三日目】市議さんが来られ、ようやく現状が上層部に伝わる。事が少しずつ動か動き出した。応援に来て下さった市職員さんの対応にも助けられた。 その後、約2週間は災害対応。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

飯石地区は普段から防災意識が高かったり、住民さん同士の助け合いがされている地域。また、偶然にも7/12の大雨災害前にはの支部長会で防災に関する話し合いや、防災備品点検などを行っていたため、当日の対応としてはスムーズに動けたと思う。避難所での炊き出し、給水車の対応についても住民さんの協力のがあり、対応することが出来た。声掛けや土砂の片付けなども各自治会で作業をされたり、改めて飯石地区住民さんの力を感じた。心から感謝を申し上げたい。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

今回のように地区内でも道路が分断され、身動きがとれない状態方が多数いた。地域内で防災時の役割などを決めていても、実践で活かすことが出来ない場合があるため、今後はそれらをふまえた防災訓練をしたり、一人一人の防災意識を高める取り組みをしていきたい。また、とにかく災害の情報が錯乱しており、自主組織と市、社協や建設業などさまざまな機関からの情報を整理しきちんとまとめ、繋いでいくことが出来ればいいと思う。災害時よりも、災害後が長く、住民さんからの要望も日々変化してきている。今回は大災害のため、様々な対応に時間がかかると思うが、今後市の方では、都度ニーズにあった対応をできるだけ早くお願いしたい。

### 4. その他（自由記述）

今回、市の方でも災害対応はとても大変だったと思う。交流センターに来られた市職員さんが手持無沙汰な様子の方がおられた。実際、そういった方に対しても自主組織側も適切な指示をすることができなかったことは反省したい。しかし、応援に来られたり、電話対応された市職員さんの他人事のような言動や事務的な対応をされる方には不満を抱くところ。それらは業務かもしれないが、地域住民の想いに寄り添い、それらをくんで始めて成立するものではないだろうか。打っても響かない、感度が違う方と話をしてもいっこうに前に進まない。何のために、誰のためにそれをやるのか、改めて考えて頂きたい。



# 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

躍動と安らぎの里づくり鍋山

## 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

- ・【情報伝達】携帯DOCOMO、NTT固定電話が不通になり、住民さん、総合センターとの情報伝達が思うようにできなかった。LINE電話で情報共有を行った。
- ・【避難対応関係】避難者名簿（コロナ対応）も迅速に対応できた。
- ・【新型コロナ対応関係】コロナ対策はしっかりできた。  
(以前、市より支給頂いたコロナ対策グッズにより、手指消毒.検温.マスク着用 等)  
(急な大雨による避難だったのでマスク未着用の避難者さんにもマスク着用の徹底ができた。)
- ・【避難指示】を出す際、基本「各自の食事の持参」「常用している薬の持ち出し」を促して欲しい。

## 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

- ・日頃の声掛け、見守りが出来ていたことでスムーズに住民さんが避難されたように感じる。  
※12日夜に衛星電話設置により…
- ・13日（火）避難行動要支援者へ連絡、安否確認が出来た。
- ・14日（水）躍動鍋山より各支部長、各自治会長さんへ連絡し、情報確認、共有が出来た。
- ・急な大雨の為、各自食事の準備できないままの避難となったが、総合センターからの非常食対応が早かった。
- ・防災格納庫の防災用品を、有効的に活用する事ができた。

## 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- ・長期避難所開設になるのであれば、パーテーション・シャワー室・女性専用部屋が必要。
- ・避難された方が情報を知るために、大集会室にテレビもしくはラジオ等の必要を感じた。

## 4. その他（自由記述）

- ・市職員、躍動鍋山職員の任務分担が分かりにくかった。
- ・避難所開設時の、光熱水費、職員の人件費（時間外）の費用について明確にして欲しい。  
(例えば、交付金の事業費を一部人件費に流用しても良いのか。)
- ・避難所開設時、交流センター職員への対応を、市としても検討して頂きたい。

# 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

中野の里づくり委員会

## 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

・警戒レベル4(避難指示)発令後、自治会長に連絡し自治会内の住人の安否確認を依頼した。また、家屋(特に住家)や住宅敷地に被害を受けられた方の調査を依頼した。

・安否不明者の情報を巡回の警察官と共有し、情報把握に努めた。

・交流センター入り口付近の道路に山法面崩壊土砂が堆積し、交流センターへの進入が困難になったことから、中野多目的集会センターにも避難できるよう避難所を開設し、ページング放送にて情報提供をした。交流センター前の堆積土砂については、Facebookでも情報提供をした。(当日の一時避難者：交流センター19名、多目的集会センター39名)

・昼食に関して、地元住民から提供頂いた食材を使用し、避難者有志と協力して食事作りを行った。

・自宅等への土砂流入により帰宅困難となった世帯の長期避難(宿泊含む)を受け入れ、施設管理や食事の提供、今後についての相談援助を行った。(12日～15日、延べ11名)

・断水の続く世帯(特に高齢世帯)を訪問し、市から提供のあった飲料水を配布した。

・断水の続く世帯に向けて交流センターのシャワー室を開放し、ページングおよびFacebookページにて情報提供をした。(16日～21日までの6日間)

・断水の続く世帯に向けて交流センターの水道を解放し、ページングおよびFacebookページにて情報提供をした。

・自宅が全壊、一部損壊した世帯に対し、市から出ている情報(罹災証明、公営住宅等)の情報提供をした。

・ボランティアセンターについての情報提供と、申し込みのサポートを行った。

## 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

・情報伝達訓練を行っていたので、自治会長に連絡し、安否確認が早めにはできた。  
(近所の方の声掛けも多くあった)

・住民の皆さんの協力により人数分の食事提供がスムーズにできた。

・断水時に住民の皆さんから山水等の提供があり、避難所のトイレの使用を継続できた。

## 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

・断水になった時の水の備蓄がなかったので、備蓄しておく。

・おかず用缶詰しか備蓄がなかったため、大人数の避難に備え備蓄しておく必要がある。

・対策本部の役割や開設基準、事務局の役割や避難所の機能、市役所や総合センターとの連携について、関係機関同士で事前に協議し、体制を整えておく必要がある。

・災害になった時に必要な備蓄品を整理し、そろえておく必要がある。

・今回の災害のように、土砂で道路がふさがり、中野地区の住民の皆さんが中野交流センターに避難できない場合のことも考えておく必要がある。

## 4. その他（自由記述）

・市役所の職員が来られた時の役割分担を決めておく必要がある。

・今回の災害で「水のありがたさがよくわかった」という意見をたくさん聞いた。はっきりとはわからないが、中野地区への給水ルートが2系統あると思われる。早めから断水になった地域は割と早く復旧したが、遅くから断水した地域はかなり遅くまで断水していたように思う。問題は長く断水が続いた地域の皆さんの不安とストレス、そして怒りだと思う。

水道局の職員の皆さんには長期間の対応で大変お疲れになったことと思います。が、その日その日の工事の進捗状況や修理の状況、今後の見通し等を放送いただければ少しは安心されるかなと思いました。(最初は皆さんお礼を言われるが、日がたつとだんだん機嫌が悪くなってきますので…)

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

吉田地区振興協議会 吉田交流センター

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

- ・福祉委員さんより独居の方の避難是非の電話確認が入る。
- ・避難支援の名簿作成に関わった委員さん等、直ちに行動に移して下さった自治会もあった。
- ・昼間での避難だったので情報伝達・共有がスムーズに確定された。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

- ・総合センターより、体育館の避難所準備の要請にも速やかに対応できた。
- ・避難者の、検温・体調の良し悪しの状況、名簿への記入等スムーズに対応、部屋へ案内できた。
- ・昼間、早めの避難だったので、避難者の気持ちに少し余裕があると見受けられた。
- ・こちらの声に耳を傾けていただき行動してもらえた。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- ・今回9名受け入れたが、今後避難所にするとしたら何人まで受け入れられるか確定させる。
- ・パーテーション等、外倉庫からの持ち出しは可能か。
- ・自主組織職員の対応は…避難所とした時に常に交流センターへ何時でも駆け付けられるか。
- ・自主防災組織連絡網の整備を早急に訓練実施の必要性あり。  
(夏・冬・昼・夜様々なパターンに対応できるよう整理・整備が必要)
- ・備品の整理・車椅子設置(1台は欲しい)・食糧(高齢者用が必要)・毛布など欲しい。  
(夏・冬・昼・夜様々なパターンに対応できるよう整理・整備が必要)

### 4. その他（自由記述）

- ・避難所とするなら交流センターの1階から2階へ上がる手段を今後考える。
- ・交流センターの裏山の崩れる可能性もある。避難所として適正であるか。

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

民谷地区振興協議会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

・総合センターからの連絡後、交流センターから会長・副会長・センター長・自治会長・福祉部長に連絡。  
・集まれるものが交流センターに集合し、民谷集落センターに自主避難所を開設することに決定。  
・高齢者（一人暮らし・昼間一人である人）への連絡、避難誘導、防災物資の運搬（交流センターから自主避難所である集落センターへ）等役割を分担して、それぞれの動きへ。  
・集落センターに自主避難所を開設。その他の役員や民生委員も自主避難所に集まる。  
・高齢者を避難誘導。家の裏山が崩れたなどで、自主避難してきた人もあり、30人が避難。運営スタッフは10人。  
・昼食に防災食を提供。コロナ対策（検温・消毒・換気など）、水分補給、休息できるようにする。  
・16時に解散。宿泊者はなし。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

・最初に集まった5人で初動の動きがスムーズにできたこと。  
○一人暮らしや昼間一人である高齢者に電話したり、直接訪問したりして避難誘導や避難するかどうかの確認ができた。（担当を分担）  
○避難所に必要な物資の搬入  
○避難してきた人への対応  
・住民の協力意識の高さ  
・停電・断水がなかったことで比較的落ち着いて過ごせた。  
・レベル5の連絡が携帯メールで来たので、車を運転中でも分かり、とりあえず高齢者を車で一時避難場所へ移動させることができた。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

・民谷交流センターは地区の中で一番低い所にあり、川が氾濫すると真っ先に浸水してしまう。また、レッドゾーンにあるために、指定避難所にもならないし自主避難所としても機能しない。実際に今回も用水路から校庭へ水が上がって10cmくらい水が溜まっている中を防災物資を運んだ状況である。  
・防災備品の格納場所（交流センター）と自主避難所（集落センター）が離れているためのリスク。  
・今回は自主避難所に入った人が計40人（30人の避難者、10人のスタッフ）で、ぎりぎりの人数だった。コロナ禍の中、もっと広い避難場所が必要。  
・避難所として機能できる交流センターの早急な建設が必要。  
・指定避難所として機能できる新たな交流センターが完成するまでの間、暫定的とはいえ自主避難所として今後も民谷集落センターを活用しなければならない。避難者の健康管理のために空調設備（エアコン）は必須である。また、情報を得るためにテレビも必要であると痛感した。（現在はどちらも無い。）  
・自主防災会ができてはいるが、実際に動いたことがない。当日は平日だったため、地元にいる人たちだけに連絡したが、振興協議会の委員には自主避難所を開設していることだけでも連絡しておくことが必要だった。  
・自主避難所ということで、市役所（総合センター）からの協力はなく、すべて自分たちで運営した。昼間だけで済んだので今回はよかったが、宿泊者がいたり何日も続いたりすればとても無理。協力をお願いしたい。

### 4. その他（自由記述）

・正式には吉田健康福祉センターが指定避難所だが、民谷から距離がありいろんな面で大変である。何としても少しでも早い交流センターの建設が必要。  
・一時避難所から指定避難所へ移動しても、健康福祉センターも箱が小さいので全員が入ることができないのではないのか？中学校・体育館・生涯学習交流館の利用はできないのか？

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

田井地区振興協議会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

・初めての経験で、何をどうすれば良いのかわからなかった。  
・誰が、どこが（総合センターなのか自主組織なのか）主導するのか？  
・被災者宅にボランティアセンターが確認に来たが、被害が甚大でボランティアを派遣することができないとのことで、自治会、若者グループ、消防団員に呼び掛けて、災害ボランティアとして、約1週間延べ100名相当で土砂の除去等を行った。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

・夕方まで停電していたが、発電機と投光器、懐中電灯により、最低限の照明を確保できた。  
・パーソナルテントを会議室内に8張設置することができた。  
・水道が使えた。  
・災害ベンダー自販機がサンコープ雲南田井店舗にあり、ダイドーの許可により、自販機から飲料水他を供給できた。  
・災害電話が使えた。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

・交流センターまで、約2mほどで冠水するほどに増水したため、小学校に避難・移動した。交流センターは豪雨災害の際の避難所としては適していないのでは？  
・砂防ダムが工事中のため、体育館には避難せず、ランチルーム・教室を避難場所とした。  
・夕方に復電してエアコンが使えたが、長時間の停電に備え、自家用発電の導入を検討する必要がある。  
・各所からの問い合わせや、情報が集まるも、それらの情報共有が不十分で共有するための情報板のような物が必要だった。  
・初動対応用の簡易マニュアルがあれば良いのでは

### 4. その他（自由記述）

・毛布は使用者が持ち帰って処分することになっているということを知らず、クリーニングして再使用することになった。  
・トランシーバーが小学校と交流センター間で通信できず、ケアポートに中継をお願いしたが、うまく具合にできなかった。

## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

掛合自治振興会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

- ・初めての避難所開設で戸惑うことが多かった。
- ・掛合交流センターのみの避難所開設だったが、地区割をして分散して欲しい  
掛合中学校・掛合小学校・交流の館→開設すると人員的（人員配置）にどうするかが課題
- ・いつの段階で、安否確認をするのか？
- ・自治会防災委員が日中は不在が多く、安否確認を誰がするのか決めておかないといけない。  
\* 防災委員が不在の場合は「誰が」安否確認をするのか？ 各自治会で決めておく
- ・煎餅・ビスコ・水・お茶は出したが、昼食までは難しかった。  
宿泊者数を考慮して出せなかった（50食×2＝100食分）しかなかった。  
ドライカレーは好き嫌いがあるのではないかと？ わかめご飯・五目ご飯・山菜おこわ準備  
個包装か50食分の大箱にするのか？
- ・簡易たたみが少なかった。もう40枚は準備が必要ではないか

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

- ・児童クラブの部屋が空いていたので、乳児・子どもを入れることができた。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

- ・安否確認一覧表を作っておくこと、避難者・非避難者の把握が必要。
- ・適応障がいの方の対応
- ・福祉関係先との連携、どなたを福祉施設に預けるのか。（家で寝間着生活の方）
- ・宿泊者対応の宿泊職員の準備（簡易ベット、フロアマット、毛布、寝袋・シュラフ）
- ・避難所運営スタッフだと分かる、腕章等があると避難者に分かりやすい
- \* 避難所開設時に必要なグッズを用意しておく
- ・安否確認開始のページング放送について、市からの警報等の放送が絶え間なく流れる中で  
放送すべきか？要検討  
\* 電話も多くかかってきて、ページング放送をできる状況ではなかった。
- ・安否確認時、在宅で連絡は取れるが、避難路が断たれ孤立したケース有り。  
安否確認内容を再検討してはどうか？
- ・訓練は防災委員の意識共有と確認。 実際は、避難勧告が市から出たときに「安否確認」を行う、その後、安全を確認しながら被害が無いか見回りする。
- ・人目があって横になりにくい為、仕切が必要。
- ・災害時対応の自販機の場所と方法の確認。（無料・有料）

### 4. その他（自由記述）

- ・車いす、歩行器の必要な方の避難は受け入れるのか？自分は勤めに出たい  
\* 介護保険認定を受けていれば、ケアマネジャーに連絡してもらう  
{支援がいる方は、家族等が付き添うのが原則、福祉避難所に入所} 【市との検討・共有事項】
- ・指定避難所開設後、市役所職員が来たら、自主組織の職員は準備が出来たら帰宅して良いか
- ・市役所職員が2名整えば、主導は「市役所職員」でよいのか？

令和3年7月豪雨（仮称）における対応状況に関して、課題等を取り急ぎまとめてみました。取り急ぎまとめたものなので、意味不明瞭、思い違いの箇所があるかもしれませんことをご容赦ください。現段階では、個人の意見ではありますが、早い時期に、自治会も含めて対応状況の検証と問題点・課題の整理を行い、今後に備える必要があると思っています。皆様のご協力をお願いします。

多根の郷の対応欄に、●印を付している項目（網掛け部分）については、総合センター（雲南市）の回答（見解）を求めたいと考えています。

項番	発生した出来事	問題点, 検討すべき課題	多根の郷の対応	雲南市の見解（考え方）
<b>1. 避難行動要支援者に対する救助（救出）要請</b>				
①	1人暮らし高齢者（避難行動要支援者）の安否確認を支援者に依頼したが、「危険なため自宅まで行けない」として引き返す。 消防団や多根の郷での救出は困難と判断し、総合センターへ救助（救出）を要請した。	1. 行政から要請した方が迅速性があると判断して総合センターへ救助（救出）を要請したが、適切な対応であったのか？	●総合センターへ救助（救出）を要請したのは適切な対応であったのか？ 直接、消防署もしくは警察署への救出要請をすべきであったか。	
②	日中、高齢者1人（避難行動要支援者）の家庭。土砂崩れによる通行止めのため、交流センターに一時避難中の家族が救出に向かえないうえ、消防団や多根の郷での救出は困難と判断し、総合センターへ救助（救出）を要請した。	1. 同上	同上	
<b>2. 道路情報等に関する情報提供</b>				
①	道路の通行止めが解除になって通行できるようになったら、告知放送を利用して知らせしてほしい。	1. 崩れた土砂を撤去するなどして通行できるようになっても、雲南市からの情報提供（周知を含む）はされない。 2. 通勤・通学を含め生活に大きな支障があるため、通行できるようになった情報は告知放送等を通じて情報提供する必要がある。 3. 多根須佐線、飯石広域農道、国道54号が土砂崩れにより通行できなくなり、一時期、多根交流センターからはどこへも行かれない状況（孤立状態）が発生した。この3路線は、いずれも他の地区へ通ずる重要なルートである。	雲南市からの情報提供はなく、地区民から提供された情報を基に「通行止め」や「通行止め解除」の情報は告知放送を利用して随時周知している。 ※1.多根須佐線, 国道54号と飯石広域農道(萱野地内)の通行止め解除について告知放送を行った ※2.雲南市からは情報提供されないの、いずれも地区民からの情報等を基に行ったものである。 ●雲南市から、通行止めや通行止め解除に関する情報は何らかの方法で多根の郷へ情報提供されることを要望する。	
②	告知放送で放送されても、その場に行かないと聞くことができない。	1. 通行止めや通行止め解除の情報などは、告知放送だけでなく文字放送も活用してはどうか。	●告知放送や文字放送だけでなく、その他の媒体も活用した効果的な広報体制について検討するよう要望する。 ●避難情報等は防災メールを活用されている。ホームページで知らせるのもよいが、環境が整っていないと閲覧することができない。いろいろな方法（媒体）を組み合わせて、防災メールのようにどんどん発信することを要望する。	
③	断水地区の住民を対象とした温浴施設が無料開放に関するお知らせが放送されたが、通行できるルートも同時に知らせるべきである。	1. 各所で通行止め箇所が発生している状況の中では、普段のルートではたどり着けない事態も考えられる。	●無料開放する施設に併せて通行できるルートも周知するよう、地区民の意見として要望する。	

項番	発生した出来事	問題点, 検討すべき課題	多根の郷の対応	雲南市の見解 (考え方)
<b>3. 指定避難所の開設</b>				
①	<p>指定避難所が1箇所開設されたが、そこまで避難できず別の避難所(クラシック島根CC)へ避難したが、当初は建物内に入れてもらえなかった(避難させてもらえなかった)。</p> <p>豪雨の中、安全な避難ルートの確認ができず、クラシック島根CCへ避難したが建物内に入れてもらえなかった。総合センターへ開設を要請しても、当初の対応は「現時点では開設しない。必要なら多根の郷から要請してほしい」であった。 ※最終的には総合センター所長からの要請により開設。</p>	<p>1. 土砂崩れなどにより、開設された避難所まで避難できない事態も発生する。予め指定した避難所は、多根の郷の求めに応じてすぐにでも開設できる体制にする必要がある。</p> <p>2. 「人命最優先」を考慮して、多根の郷が開設を要請すれば、総合センターは開設要請を行う体制づくりが望まれる。</p>	<p>1. 緊急時の連絡先(クラシック島根CC)の整備を総合センターに要請していたが、整備途中であったため多根の郷からの連絡(開設要請)ができなかった。</p> <p>2. 本来、雲南市が管理する施設以外の施設を避難所として開設要請する場合は、多根の郷からの求めに応じて雲南市が施設の使用を要請するのが妥当ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●雲南市が契約した指定避難所との緊急時の連絡体制表は、本来市が主導して整備・更新を行い、関係箇所へ通知すべきものとする。</li> <li>●雲南市が管理する施設以外の施設(クラシック島根CC、島根イグル)は、多根の郷からの求めに応じて雲南市が避難所として施設の使用を要請することが適切と考える。</li> <li>●雲南市(総合センター)職員は、多根の郷から開設要請があった場合の対応を理解しておく必要がある。</li> <li>●クラシック島根CCや島根イグルを避難所として開設する場合の手順を明確にして、多根の郷に示しておく必要がある。</li> </ul>	
<b>4. 避難行動要支援者, 地区民に対する安否確認</b>				
①	<p>地区民に対する避難の呼びかけができなかった。</p>	<p>1. 呼びかけを行うべき時間帯(10:30~13:30頃)に、対応できる本部要員が1人しかおらず、電話対応等が手一杯で手が回らなかった。</p> <p>2. この時間帯は外に出ること自体、危険を感じるほどの豪雨であったことも、避難の呼びかけを躊躇した一因でもあった。</p> <p>降雨が多少小康状態になりつつあった頃(11:00頃)から、多くの方が避難されてきたように感じた。</p>	<p>豪雨の中、要員の招集が難しかった点はあるが、基本的には早めの避難の呼びかけと、避難するのに支援が必要な人の避難支援のお願いをするべきであったと考える。</p>	
②	<p>支援者への協力要請ができないまま、避難行動要支援者の安否確認が遅れた。</p>	<p>1. 電話による避難行動要支援者の安否確認が夕方近くの時間帯になった。</p> <p>※本部要員が確認を行った。</p>	<p>本部要員が少なかったこともあるが、早くに支援者等に協力をお願いして安否確認を行うべきであったと考える。</p>	
③	<p>地区民に対する避難完了確認, 安否確認, 所在確認ができなかった。</p>	<p>1. 「緊急時の連絡体制表(災害対策本部~情報収集伝達班)」, 「自治会緊急時連絡体制表」を活用した避難完了確認, 安否確認, 所在確認の要請をしなかった。</p>	<p>ある程度落ち着いてきた段階で、情報収集伝達班責任者(自治会長もしくは自治会代表)に対して、(避難完了確認), 安否確認, 所在確認を要請するべきであった。</p>	



項番	発生した出来事	問題点, 検討すべき課題	多根の郷の対応	雲南市の見解 (考え方)
<b>(つづき) 4. 避難行動要支援者, 地区民に対する安否確認</b>				
④	1 人暮らしの高齢者, 高齢者のみの家庭に対して, 電話による聞き取り調査を行った。 ・実施日時 7 / 13 6時30分頃から ・対象家庭 18世帯 ・聞き取り項目 ①断水の状況, 飲用水の確保について ②食料の備蓄の有無について ③電気, ガスの状況について ④その他困りごとの有無について		電話による聞き取りを行った家庭はすべて避難行動要支援者である。 すべての要支援者を対象とせず, 1人暮らしと高齢者のみの家庭に限定して実施した。  本来, 支援者にお願ひすべきであったかもしれないが, 聞き取り項目が多岐にわたるなどの理由から, 多根の郷において行った。	
<b>5. 一時避難場所の開設, 避難者の報告等</b>				
①	自治会に対して, 一時避難場所の開設の要請ができなかった。  開設した一時避難場所は次のとおり。 ・上多根集会所 ・善福寺 (中多根) ・O邸 (萱野) ・O邸 (長迫) ・クラシック島根CC	1. 危険を感じざるほどの豪雨であったこともあり, 自治会に対して一時避難場所の開設を要請しなかった。 ※中多根自治会と萱野自治会, 長迫自治会から, 一時避難場所の開設に関する意見照会, 開設の情報提供を受けた。	多くの自治会長, 自治会代表は勤務先に出勤されており, 移動 (帰宅) も難しいほどの豪雨であったため, 自治会長, 自治会代表に対して一時避難所の開設を要請することは難しい判断であった。	
②	開設した一時避難場所からは, 避難者の報告を受けた。 ・クラシック島根CC (石飛自治会代表) ・上多根集会所 (石飛自治会代表) ・善福寺 (荒蕨避難誘導班長) ・O邸 (O氏) ・O邸 (O氏)	1. 報告を求めたケースもあったが, 「〇〇さんが避難されている」との報告をされたケースもあった。 2. 雲南市から, 避難者数や避難所の状況等の報告を求められることはなかった。	雲南市が開設した指定避難所以外に, 自治会が決めた一時避難所の避難者数は, 多根の郷で把握できていた。 ●雲南市が開設した指定避難所だけでなく, 一時避難所 (左記のとおり) への避難者もある状況の中, 一時避難所を含む避難者数や避難所の状況は, 雲南市においても把握しておく必要があったのではないかと考える。 ※総合センターでは, 指定避難所 (多根交流センター) に避難された人だけしか把握されていなかったと思われる。総合センターや市から派遣された職員に避難者数等の報告を求められることもなかったし, 報告することもなかった。	
<b>6. 消防団の出動要請</b>				
①	消防団から要望されて総合センターに対して「消防団の出動要請」を行った。	1. どのような事態が発生したら出動を要請できるかなど, 出動を要請する (できる) 判断基準のようなものがあるのか。	●「出動を要請できる基準」を明文化し, 事前に示していただきたい。	
②	消防団からの要望もあり, 被災者宅の片づけ等のため消防団の出動を総合センターに要請したが認められない事例があった。	1. 出動の是非を判断する判断基準のようなものがあるのか。	●出動の是非が判断できる判断基準を明文化し, 事前に示していただきたい。	

項番	発生した出来事	問題点, 検討すべき課題	多根の郷の対応, 雲南市への要望等	雲南市の見解 (考え方)
<b>7. 土砂崩れ等に関する情報の取扱い</b>				
①	地区民から連絡を受けた土砂崩れ等に関する情報（道路に関する情報を含む）は、多根の郷で聞き取った後、総合センターへ情報提供した。（地区民から総合センターへの情報提供の有無に関係なく） ※地区民からの土砂崩れ等に関する情報提供には次のパターンがある。 ①多根の郷と総合センターへ連絡する ②多根の郷だけに連絡する。 ③総合センターだけに連絡する。	1. 地区民からの直接の連絡と多根の郷からの情報提供により、結果として、総合センターでは情報の重複による混乱の一因になったとの指摘があった。	●次のとおり対応することを基本にしてはどうか。 『多根の郷で災害情報等の聞き取りを行う際に、総合センターへの連絡の有無を確認し、未連絡の場合は直接連絡するよう依頼する。連絡を依頼された場合のみ、総合センターへ連絡する。』 ※総合センターへは、地区民から直接連絡することを原則とする。	
<b>8. 指定避難所の運営等に関して</b>				
①	「避難指示」が解除されると同時に避難者は「自主避難者」の扱いとなり、指定避難所に派遣された市の職員は引き揚げられた。	1. 避難指示は解除されても避難の継続はあると思うが、今回の対応は適切、妥当であったのか。指定避難所の開設は市の責任で行うもので、閉鎖するまでの間は市が責任を持って行うものと理解している。 2. 「指定避難所の閉鎖」、「体制の解除」は明確に指示する必要があるのではないか。	●避難指示の解除は告知放送等で周知されるが、指定避難所の開設や閉鎖に関して、明確な指示と周知が必要と思われる。 ●市から派遣された職員は「指定避難所の閉鎖」や「体制の解除」等について、総合センターの指示を受けて避難所内に明確に指示すべきと考える。	
②	指定避難所に派遣された市の職員の位置づけは、指揮者（連絡・調整）なのか、要員なのか、位置づけがよくわからなかった。	1. 本来であれば、①災害対策本部（総合センター）の指示を伝える、②避難所の要望を伝える、③避難所の状況報告等、災害対策本部（総合センター）と避難所との連絡・調整を担う必要があるのではないか。	●避難所へ派遣する市職員の任務（役割）を明確にして、派遣者へ指示することが必要と考える。	
③	派遣された職員は、避難者の受入れや運営に関して特段の指示はなかった。（その場に居合わせなかったのかもしれない）	1. 感染防止対策を行ったうえでの避難者の受入れや避難スペースの割り当てを行うなどの配慮が必要であったが、やや不十分であったと考える。 2. 運営に協力する避難者では、何に対してどのように配慮が必要かわからない。	●派遣された市職員は、指定避難所の開設責任者として、避難所の開設や避難者の受入れに関して的確で適切な指示を行うことが必要と考える。	
<b>9. 避難者の受入れに関して（感染防止対策）</b>				
①	避難者の受入れにあたって「避難者名簿」を作成するが、新型コロナウイルス感染症に対応した仕様となっていなかったため、総合センターから送付された様式を使って対応した。	1. 受け入れ時に検温を実施したのに加え、送られてきた「健康状態チェックリスト」の記入による健康状態のチェックを実施した。 2. 整備済みの「避難所運営マニュアル」に「避難者受入れ名簿」は用意しているが、新たに「健康状態チェックリスト」を追加しておく必要がある。	「避難所運営マニュアル」に、新たに「健康状態チェックリスト」を追加する。	

項番	発生した出来事	問題点, 検討すべき課題	多根の郷の対応, 雲南市への要望等	雲南市の見解 (考え方)
<b>(つづき) 9. 避難者の受入れに関して (感染防止対策)</b>				
②	避難者は「避難者スペース」で待機してもらったが、 ①全員がマスクを着用していたこと、②健康状態に異常がなかった こともあり、家族ごとの隔離措置（隔離をとる）までは対応できなかった。	1. 結果として異常者がなかったことから、パーティションや間仕切り等を行わなかった。 ※一定程度のパーティションや間仕切りは、防災用品として多根の郷で備蓄している。	異常者がいなかったとしても、パーティションや間仕切り等を活用した家族ごとの隔離は行うことが望ましかった。 ●指定避難所として雲南市が指定して開設するのであれば、感染防止対策に必要な一定程度の器材は、本来雲南市が備蓄しておくことが望ましいと考える。必要であれば、自主組織で用意せよというのは酷ではないか。	
<b>10. 防災用品の整備・保管等について</b>				
①	外に出ることさえ危険を感じるほどの豪雨の中で次々に避難者が避難される中、避難所運営に必要な防災用品を指定避難所建物内へ搬入することが難しかった。 ・通行止め箇所等を表示する「多根地区全図」 ・段ボールベッド ・避難スペースのフローリングフロアに敷くマットなど	1. 人手もなかったが、豪雨の中での持ち運びはできなかったため、降雨が小康状態になった時点で運び込んだ。 2. ①何を、②どの程度、③どこに などについて検討して対策を考えておく必要がある。	防災用品の保管に関して、①何を、②どの程度、③どこに などについて検討したい。	
②	防災体制発令時等に使用する帳票はすぐに使用できるよう、事前にある程度印刷して保管しておく必要がある。	1. 限られた要員の中で、フォルダー内の保管場所を検索して印刷するようでは間に合わない。 2. 事務局員がいない場合などは、検索も印刷もできないケースが考えられる。 3. 停電の場合はパソコンも使用できない。	防災体制発令時に使用する帳票についても、上記の防災用品とともに保管の仕方、保管場所、保管方法等を検討したい。	
<b>11. その他</b>				
①	萱野自治会 O氏からは、随時、自治会内にとどまらず、道路の土砂崩れ箇所や断水等の情報の提供を受けた。			
②	避難者の中に「ベッドでないとダメ」という人があったが、備蓄している「段ボールポッド」が役に立った。			
③	多根の郷で用意した「多根地区全図」に、①地区内の土砂崩れ等による通行止め箇所や、②避難所の開設状況を表示したが、通行止め箇所の表示は避難経路や救出経路を指示・連絡するのに非常に有用・有益であった。		現在の「多根地区全図」は、総合防災訓練用に急急に整備したものである。恒久的に使用できる設備として整備することを検討したい。 ※普段は室内掲示、防災体制発令時には防災用品として使用できる仕様のものとするなど。	

## ◇令和3年7月豪雨（仮称）での対応状況

## 1. 開設した避難所と避難者数

区 分	避難所	所在地	避難者数	うち宿泊者数	市職員の派遣
指定避難所	多根交流センター (9:30)	下多根	41名	6名	有
	クラシック島根カントリークラブ (11:15)	上多根	6名	0名	無
一時避難場所	上多根集会所 (9:30)	上多根	15名	2名	無
	善福寺 (10:00)	中多根	1名	0名	無
	〇 邸 (11:00)	萱 野	1名	0名	無
	〇 邸 (11:30)	長 迫	2名	0名	無
指定避難所	松笠交流センター	松 笠	2名	0名	—
合 計	6箇所（7箇所）	—	68名	8名	—

※避難所欄の下段（ ）内の数字は、開設時間を表す。

※避難者数は「避難者名簿」に基づく延べ人数を表す。

## 2. 災害対策本部の設置と解除等

(1) 設置期間：7月12日（月）9時30分～7月13日（火）8時頃

(2) 対応要員

月 日	対応要員数	対応要員氏名
7月12日（月）	約7名	吾郷 静（市職員）、日野美孝（本部長） 菊池純子（総務班長）、吾郷真由美（総務班員） 宮崎真理子（副本部長）、安井 淳（副本部長）
7月13日（火）	約4名	吾郷 静（市職員）、永瀬玉緒（市職員） 日野美孝（本部長）、菊池純子（総務班長）

(3) その他

避難所の運営（炊き出しなど）にあたっては、一部避難者の協力を得て実施

## 3. 断水への対応

浄水場の浸水により、ほぼ地区内全域が断水

(1) 期 間：7月12日（月）～17日（土）

(2) 地 域：多根地区全域

（裏面へ）

### (3) 対 応

- a. 7月13日から、多根の郷職員による給水対応を実施
- b. 多根の郷職員による給水件数 96件(延べ)
- c. 高齢者宅への配水(給水タンクによる水を配達) 約40件

### 3. 多根地区民への周知

雲南市による告知放送とは別に、多根の郷が独自に行ったペイジング放送は次のとおり

(1) 実施日：7月12日～15日

(2) 放送の主な内容

- a. 指定避難所、一時避難場所開設のお知らせ
- b. 安全な経路で避難をすすめるお知らせ
- c. 土砂崩れ等による市道の通行止めに関するお知らせ(住民からの情報に基づく)
- d. 崩土除去による市道通行止め解除に関するお知らせ(住民からの情報に基づく)
- e. 断水のお知らせと、高齢者宅等で給水場まで出かけられない方への給水タンクによる配達のお知らせ
- f. まだ水道の水が出ない家庭は多根の郷へ連絡をすすめるお知らせ

### 4. 対応上の課題と検討

今回の災害対応における課題と問題点等を整理して、別途検証・検討会を開催して今後の災害に備える。

具体的な課題と問題点等は「令和3年7月豪雨(仮称)における対応状況に関する課題等の検討」のとおり。

### 5. 添付資料

「令和3年7月豪雨(仮称)における対応状況に関する課題等の検討」

以 上

# 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名 松笠振興協議会

## 1. 地域自主組織における災害対応の状況について(自由記述)

・避難所開設を受け、会長、事務局長、交流センター職員、民生委員が初動対応。その後副会長、連絡のついた自治会福祉委員の協力も得て、民生委員と、近隣支援者で区内高齢者、独居宅への状況確認を行い、避難希望者で移動できない方の移動支援を行った。また、随時電話による地区内状況の把握をし、雨上がり後直接状況確認も行った。

避難所として、今回14世帯38名の避難があり、多目的ホールで待機してもらったが、ウイルス対策は体温、消毒、マスク対応のみ実施。間仕切りの準備はして無かったため、ホール内で世帯ごとに場所の確保してもらった。非常食は100食準備してあり当面对応できた。近隣支援者、避難者で炊き出しも実施した。夕方には避難者全員が帰宅できたため、翌日6時の避難所解除まで、市担当者と地元対応者(会長、事務局長)が宿泊し対応した。

松笠交流センターは松笠川の水位上昇により、川の氾濫が懸念されたため、避難者の移動も検討していた。市からの指示は、県道向かいの営農指導センター(避難所に指定)へ移動するよう指示があったが、その後水位が下がったため移動する必要は無かった。

## 3. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点(自由記述)

・高齢者、独居等の避難確認について、民生委員、福祉推進員が中心となって、電話連絡、訪問などで素早く確認することができていた。

・避難所近隣者の自主的な協力により、避難が必要な方の避難所への移動がスムーズに行われた。

また、近隣者や避難者の方たちの協力で、炊き出しも行われた。

・事前に非常食を振興会で準備してあったのと、炊き出しで当面の食事は確保できた。

## 4. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点(自由記述)

・高齢者、独居等の避難確認について、民生委員又は支援者で独居宅へ訪問確認し希望者を避難所へ移送していたが、今回道路通行不能場所が多発したことを受け、危険を侵して移送するのが正しかったのか疑問も残った。(一部を除き各戸に被害は無かった。)

・各自治会との連携についてうまく機能しなかった。各自治会内の状況確認を行い、地区指定避難所へ報告をするところまで徹底する必要があると感じた。地区指定避難所では各自治会内の情報が把握しにくい。

・今回、国道54号線を含め、あらゆる道路が通行止めとなったが、避難所に詳しい情報が入らない。放送の情報だけでは問い合わせに十分対応できなかった。域外の職場からどう帰ればいいのかの問い合わせは多数あった。せめて、地区拠点避難所には詳しい道路情報を入れて欲しい。

・避難所での障害者の入浴支援はどうなっているのか、支援策が必要であると感じた。

## 5 その他(自由記述)

令和3年8月10日

## 7/12 山陰豪雨災害の反省点

波多自主防災会

### 良かった点

- ① 波多地区内の主に「移動手段」を持たない高齢者宅へ「避難」の声掛けを行い希望者に対し手分けして送迎を行い避難して頂いた。(47名～宿泊者6名)
- ② 概ね各自治会の安否確認ができた。

### 不足していた点

#### 1) 防災本部について

防災スタッフへの招集をかけていない。自主的に出動して頂いた。

消防団への連絡をしていない。

一斉メールの不備

固定電話を受け専用とする

非常用電話が使えない、使い方が分からなかった

#### 2) 人材の不足

受付対応者の不足(自動検温器は有効)→自動記録

情報が輻輳していた。

情報を整理集約する人が居なかった。

避難者送迎のスタッフ不足

昼間の災害だったので勤務等で若手のスタッフはすくなかった。

各自治会の会長、情報連絡担当、避難誘導担当の行動はされたのか？

#### 3) 避難所における必要備品

寝たきりの方が避難されたがストレッチャー及び(電動)ベットが必要(又は簡易ベット)セーフティーコーンの常備(通行止め規制用)

訓練時の安否確認ホワイトボードを使っていなかった。(改良必要)

「避難所開設中」、「避難者受付」パネルの常備

担架無し(ケースのみ有り)⇒常備

感染の疑いがある方用専用食器等(紙コップ、紙皿)

使い捨てポリ手袋、防護服、

椅子1台のみ(ノーパンクタイヤ又は空気注ぎの常備)

米(精米済み)の備蓄(梅雨前に確認)

波多地内全地図(宅名屋号)が必要。(災害発生場所等記載)

モバイルバッテリー

#### 4) 避難者の行動など

天候が回復すると一斉に帰宅希望者が続出。

屋号使用される方が有り理解できない場合有り。

避難せず自宅で待機する方有り

#### 5) 避難所関係

発熱者（感染の疑いのある方）の受付から隔離専用室までの案内担当者やその対策準備

発熱者（感染の疑いのある方）の医療関係先への通報又それ以降の対応の検討

（医療施設への搬送～救急車の手配等？）

車両乗降者用玄関屋根庇必要

車椅子用段差解消（玄関廻り）

避難者の特に認知度の高い方の対応に手間をとられる。

ペット同伴避難希望者が有ったが対応できなかった。（車両内にて避難）

電話受付簿が無かった。（常備）～時系列の記録用

波多地内全地図（宅名屋号）が必要。（災害発生場所等記載）

椅子でいて頂いたので苦痛に感じられた方有り

（横になれる場所の案内もおこなっていた）

#### 6) 情報関係

予想雨雲レーダーの放送を希望

帰宅者からの（国道閉鎖による）迂回ルートについて問い合わせが有るが、正確な道路情報が無い為正確な情報が伝えられない。

ふれあいセンターと指定避難所の利用者関係の情報が少ない。連携の話し合い必要。

（災害時の訪問介護のあり方）

他地区の被害状況が分からない。

避難者への情報伝達「サイネージ」設置

#### 7) その他の意見

物資班の検討

ドローン空撮確認

炊飯器用専用コンセント回路の増設必要



## 令和3年7月豪雨災害 地域自主組織における災害対応の振り返り

地域自主組織名

入間コミュニティー協議会

### 1. 地域自主組織における災害対応の状況について（自由記述）

・避難所運営（入間交流センター）については、順次、役員が交流センターに集まり、避難者への支持、地区内・市内の被災状況把握、道路情報の収集等を手分けして行った。穴見地区の状況把握は会長が行った。

・災害用の水・食事が交流センターに備蓄されていて、12日の飲み水・昼食は準備できた。

・電話がつかない家が多かった。

・要介護者を含め、避難所から迎えに来て欲しいとの電話があっただけで対応に苦慮した。

・各戸・各人の安否確認については、入間・穴見地区緊急時連絡先をもとに、自治委員が各戸に連絡をして安否確認を行う体制で対応した。ただ、自治委員と連絡が取れない場合があり、地区内全員の安否確認、各自治会の状況が把握できなかった。

### 2. 今回の災害対応でうまく機能したと思われる点（自由記述）

・防災のための食糧備蓄がされていた。

・要介護者が横になれるベッドが用意できた。

・市職員から適切な防災情報が伝わってきた。

・避難解除がでるまで、市職員が昼夜にわたり避難所（交流センター）に駐在してくださり安心だった。

### 3. 今回の災害対応での課題、今後に向けての改善点（自由記述）

・コロナ感染予防のためのボード等、備品が無かった。

・水と食糧の備蓄品は市から定期的に行われた方がよい。

・国道54号線の整備と修繕、迂回路の整備を今後も充実する必要がある。

### 4. その他（自由記述）

・福祉関連施設の連携を進めていただき、災害時に交流センターと福祉施設の連携がスムーズになるようにしてほしい。